

公益財団法人 核物質管理センター  
第19回評議員会議事録

1. 開催日時 令和元年6月26日(水)  
11時00分～13時00分
2. 開催場所 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル35階  
東海大学校友会館「東海の間」
3. 出席者(順不同)
  - 評議員 石塚 昶雄、草間 朋子、杉浦 紳之、藤井 靖彦、  
松井 一秋、美根 慶樹【評議員現在数7名、出席評議員6名】
  - 理事 代表理事 理事長：下村 和生  
業務執行理事 牛田 克己、菊地 昌廣
  - 監事 高本 学
  - 事務局 総務部長：水原 泰 他
4. 議長 評議員：松井 一秋
5. 議題  
議案  
第1号議案：平成30年度財務諸表等の承認

6. 議事の経過及び結果

開会に先立ち、定款第18条に基づく評議員会の議長の互選を行い、石塚評議員から松井評議員を議長に推薦する旨の発言があり、出席評議員全員異議無く、松井評議員が議長に選出され、以降、松井議長の進行により、議事を進めた。

はじめに、事務局から、評議員会現在数7名に対し本評議員会は6名の出席があり、定款第19条に規定する決議に必要な過半数の評議員の出席であることが報告された。

次に、定款第22条の議事録署名人について、藤井評議員と杉浦評議員の2名を選出し、議案の審議に入った。

## 6.1 議事

### 6.1.1

#### 第1号議案 平成30年度財務諸表等の承認

平成30年度の貸借対照表、正味財産増減計算書等の決算書類について、事務局から配付資料に基づき説明があった。平成30年度は民間からの調査業務を受注したことなどから収支が改善したこと、公益法人としての財務3要件（1. 公益目的事業費比率 2. 収支相償 3. 遊休財産額の保有制限）をクリアしていること及び正味財産の額が適正な水準であることなどの説明があった。併せて、本決算書類（財務諸表等）が公認会計士及び監事による監査において、適正である旨、説明があった。

また、財務諸表の説明に加え、内閣府による立入検査があり問題はなかったこと、会計検査院による実地検査及び税務署の立入検査についても特段の問題がなかったこと等、が事務局から報告された。

審議の結果、当該財務諸表等が承認された。

### 6.1.2

#### 報告事項

平成30年度の事業について、理事長から配付資料に基づき報告があった。

以下に全体を通しての主な質疑等を記す。

#### 【質疑応答】

- ・最高情報セキュリティアドバイザーに関して質問があり、同アドバイザーは指定機関として国から求められている政府と同等の情報セキュリティレベルを担保するための策の一つとして設けたものであり、当該分野の専門家に依頼している旨、下村理事長及び牛田理事他から回答があった。
- ・日本が海外に保有するプルトニウムの保障措置について質問があり、菊地理事から、輸出された使用済燃料は海外の再処理施設でIAEAの保障措置下に置かれるが、当該施設は核保有国の施設であるため、再処理されたPuはIAEAの保障措置の対象とならない。日本は輸出の段階での帳簿管理で海外に存在するPu量を把握している等、の説明があった。

7. 配付資料

資料1 平成30年度事業報告書及び財務諸表等(案)

以上、評議員会の議事の経過及び結果を明確にするために、議事録を作成し、議長及び議事録署名人が次のとおり記名押印する。

令和元年6月26日

議 長 松 井 一 和

評 議 員 藤 井 靖 彦

評 議 員 杉 浦 紳 之

( 議事録作成者 : 公益財団法人 核物質管理センター  
総務部総務課長 津田 義裕 )